様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９７１０２１７
研究課題名（和文）　平和構築とジェンダー ―フェミニスト国際関係論からの考察

研究課題名（英文）　Gender and Peace Construction : A Consideration from Feminist International Relations

研究代表者
佐藤　文香（SATO FUMIKA）
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授
研究者番号：１０３６７６６７

研究代表者の専門分野：ジェンダー
科研費の分科・細目：ジェンダー
キーワード：社会学、ジェンダー、フェミニズム、国際関係論、平和、軍隊、自衛隊、国連

１．研究計画の概要
本研究は、マクロな国際関係とミクロなジェンダー関係を架橋するフェミニスト国際関係論の立場から、国連の平和・安全保障政策と女性平和組織との関係を分析するものである。近年、国際社会では平和構築における女性の役割が重視され、平和維持活動への女性の参与を含む平和・安全保障政策のジェンダー主流化が漸次進行しつつある。国連を中心に提起されてきたこのプロセスには、国際 NGO の女性平和運動家たちのコミットメントが大きく寄与していると言われてきた。本研究では女性国際平和自由連盟（WILPF）等のケース・スタディを通じて、女性平和組織が国際関係のアクターとしてどのような役割を果たしているのかを調査し、政策推進の背景にあるジェンダー観を批判的に検討することを目的とするものである。

２．研究の進捗状況
(1) 2007 年度は、フェミニスト国際関係論による平和・安全保障研究のフォローを行い、日本での研究蓄積がほとんどないことに鑑み、書評の形で紹介することに努めた。また、国際シンポジウム「ジェンダー平等と社会的多様性をめぐる国際的展望」において、Sandra Whitworth 教授（ヨーク大学）や土佐弘之教授（神戸大学）らの報告から、平和維持活動に対するフェミニスト国際関係論の批判的問題提起に学び、意見交換を行った。
(2) 2008 年度には、アメリカ合衆国において、ジェンダー主流化政策の集大成と言われる国連安保理決議 1325 号の採択および実施に関する資料を収集した。これらの文献研究をもとに、ジェンダー主流化推進者による「平和維持活動には女性が適している」という主張が、ジェンダーを考慮しない従来の政策へのカウンターでありつつ、本質主義的なジェンダー観を背景になされていることを批判的に検討した。
(3) 2009 年度にもアメリカ合衆国で資料収集を行った。文献研究の成果としては、論文「自衛隊は 21 世紀の軍隊たりえるか」、“Why Have the Japanese Self-Defense Forces Included Women”を発表した。また、国際ジェンダー学会大会でも成果報告を行い、同時代史学会研究会では、WILPF 副会長である秋林こずえ准教授（立命館大学）らと共に、グローバルに展開する人身取引や軍事化に対するジェンダー視角からのアクション・リサーチのあり方について意見交換を行った。
(4) 以上の 3 年間の研究を通じて、国連における平和・安全保障政策のジェンダー主流化が、国際 NGO と国連関連諸機関との相互連携により推進されてきた過程についての理解が深まっている。ジェンダー主流化推進者のジェンダー観を批判的に検討することで、日本のジェンダー研究者および実務家に対して新たな問題提起ができると考えている。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
この 3 年間で、先行研究のフォローおよび二度の海外調査による文献研究を通じ、国連安保理決議 1325 号の採択に尽力した女性平和組織の実態とその背後にあるジェンダー観の孕む問題性についての理解を深めることができた。しかし、当初予定していた WILPF 以外の女性平和組織のケース分析や、1325

号以外の関連決議・宣言等の採択過程について詳細に調べるには4年間の研究では限界があり、1325号とWILPFの関係を重点的に検証する方向でまとめざるをえないのが現状である。

４．今後の研究の推進方策
上述の通り、本研究は、1325 号の採択過程と WILPF の関係に焦点をしぼる。「平和構築とジェンダー」という包括的なテーマへの理解をさらに深化させるべく、次年度以降は、1325 号を根拠とした女性平和運動家の働きかけによる国連諸機関および各国政府の取り組みに焦点をあてた研究を推進する予定である。

５．代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5 件）
①佐藤文香, 2009,「外国語文献紹介 Sandra Whitworth, *Men, Militarism and UN Peacekeeping: A Gendered Analysis* （Lynne Rienner Publishers, 2004）」,『国際ジェンダー学会誌』通巻 7 号, 107-111 頁, 査読無.
②佐藤文香,2009,「自衛隊は 21 世紀の軍隊たりえるか —セクハラ裁判からみえてくるもの」,『三田評論』1123 号, 60-63 頁, 査読無.
③佐藤文香,2008,「外国語文献紹介 Louise Olsson and Torunn L. Tryggestad, *Women and International Peacekeeping* （Frank Cass Publishers, 2000）」,『国際ジェンダー学会誌』 通巻 6 号, 188-191 頁,査読無.
④Fumika Sato, 2008, “Book Review Sabine Frühstück, *Uneasy Warriors: Gender, Memory, and Popular Culture in the Japanese Army* （Berkeley: University of California Press, 2007）”, Social Science Japan Journal, Vol.11 No.1, pp.169-172, 査読無.
⑤佐藤文香,2008,「『軍事組織とジェンダー』をめぐって —女性自衛官人権裁判のアンビバレンツ」,『インパクション』161 号, 40－65 頁,査読無.

〔学会発表〕（計　4 件）
①佐藤文香「ジェンダー化される『ポストモダンの軍隊』」, 国際ジェンダー学会, 2009 年 9 月 13 日, 福岡女子大学
②佐藤文香「ジェンダーとグローバリゼーション・軍事化　コメント」, 同時代史学会 第 22 回研究会（コメンテーター）, 2009 年 7 月 11 日, 立教大学
③佐藤文香「『軍事組織とジェンダー』を考える」, 女性自衛官の人権裁判を支援する会（招待講演）, 2008 年 9 月 17 日, 北海道立道民活動センター
④佐藤文香「ジェンダーの視点から軍事化を考える」, 沖縄と連帯するかながわ女性の会（招待講演）, 2008 年 1 月 31 日, かながわ県民センター

〔図書〕（計　1 件）
①Fumika Sato, Setsu Shigematsu and Keith L. Camacho eds., 2009, *Militarized Currents: Toward a Decolonized Future in Asia and the Pacific,* University of Minnesota Press. (co-authored, Chap.11 “Why Have the Japanese Self-Defense Forces Included Women: The State’s ‘Non-feminist Reasons’ ” , pp.251-276)